

吾妻下ろし

2022.11.15

野田中学校の正面玄関の扉は、横にスライドするタイプである。その扉が開かないし閉まらないことがある。赴任した4月当初は、開かなくて焦った。今では慣れた。建付けがわるいのかというところではない。スムーズに開くこともある。

扉の開け閉めに難儀するのは風のせいである。吾妻山からの強い風が正面玄関の扉を直撃する。すると、扉が開かなくなる。そのくらいの強い風である。その風は「吾妻下ろし」と呼ばれている。秋の終わりから冬、そして春にかけて吾妻山から福島盆地に向かって強い風が吹く。地元では昔から吾妻下ろしと呼び、この季節特有の風として認知されている。

私の人生は、この吾妻下ろしに翻弄されてきた。小学校のときは、この吾妻下ろしに向かって登校していた。吹雪のときなど、前を向くことができない。ずっと下を向いたまま学校まで行く。一方、帰りは背中を押されているようでスイスイ帰れる。

中学校はというと、やはり吾妻下ろしに逆らっての登校である。学校に着く頃には、すでに疲れている。テニスコートでボールを打っていても大変である。まともにボールが飛ばない。強風でボールがどこまでも転がっていく。

そして、最も吾妻下ろしの影響を受けたのが高校時代である。朝はいい。元々なだらかな下り坂の上に追い風である。自転車をこがなくてもいいくらいの勢いである。遅刻しないようにと猛スピードでとばし、約25分で到着である。

ところが、帰りは部活動を終え、すでに疲れている上に上り坂である。加えて向かい風である。自転車をこいでも進まない。自然と立ちこぎになる。腰は痛いし、背中が苦しいしで、何かのトレーニングをやっているかのようである。こぐのをやめ、自転車を引いて歩いたほうが早いくらいである。こんな調子だから、帰りは約50分もかかってしまう。ようやく家にたどり着くといった具合である。

ここから、勉強しようと思っても、あの頃の私には難しかった。疲れて、とりあえず寝た。朝早く起きて勉強するはずが、できるはずもなく、十分な睡眠時間となってしまっていた。朝、起きることができなかった、あの後味の悪さ、少しばかりの罪悪感は思い出したくもない。

高校時代に勉強しなかった言い訳を吾妻下ろしに求めているだけなのだが、あの頃の向かい風はそのまますの向かい風だった。たまたま、吾妻下ろしに向かって自転車を必死にこいでいる高校生を見ると、「がんばれ！」と応援したくなる。だが、こういった高校生を滅多に見ることはない。きっとお家の方の車なのだろう。腰や背中を鍛えるならば別だが、家に帰ってから勉強する余力があった方がよい。

吾妻下ろしの時期には、野田中学校に来校するお客さんも大変である。本気で力を入れないと扉は閉まらない。たぶん、多くの方は、建付けの悪い扉だと思っているだろう。毎朝、高校に通学するために、中学校の前を軽快にさっそうと自転車で通り過ぎていく卒業生がいる。お父さんに「娘さんは、いつも軽快に自転車で行きますね」と話したら「電動アシスト付き自転車なんです」とのことだった。時代は変わった。